

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200382		
法人名	株式会社 サンライズ		
事業所名	グループホーム伸&茉衣		
所在地	唐津市佐志字石ヶ元2119番2		
自己評価作成日	平成22年2月28日	評価結果市町村受理日	平成22年7月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人佐賀県社会福祉会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成22年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が結成しているおたっしやコーラス倶楽部。その都度メンバーの変更もありますが毎年行っています。
一昨年・去年とホールでの発表会に参加する機会をもらい、利用者の方は緊張しながらも上手に歌われており
達成感に満ちた表情をされていました。今後も続けていきます。
3月で6年目を迎えます。利用者の方と職員で明るく元気な空間作りを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑が多く、自然豊かな場所にあり、季節の移り変わりを楽しむことができる。「高齢者の方を尊敬し思いやりをもち安らぎのあるグループホームを目指します」という理念のもと、入居者の話をじっくり聴き、入居者が安らげる時間、その人らしい生活ができるよう支援されている。入居者で結成されているおたっしやコーラス倶楽部は、地域行事へ参加され、地域交流にも力を入れられている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	高齢者の方を尊敬し思いやりをもち安らぎのある グループホームを目指します という理念を作っており、朝礼時に唱和してスタッフ間に意識付けが出来ている。	「高齢者の方を尊敬し思いやりをもち安らぎのあるグループホームを目指します」という理念を掲げ、2ユニット全体の朝礼時に職員で唱和されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加やホームからの発案による地域活動・地域貢献が出来ないか検討している。	入居者によるおたっしやコーラス隊で地域の文化祭に参加されている。さらに、「福祉祭」など市の行事への参加も検討されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で地域貢献出来る事を見つけるように話し合いを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域に密着したより良いグループホームを目指し、情報・意見の交換の場として大いに活用している。	奇数月の第4水曜日に開催し、行事の報告や意見交換の場として活用されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは密に連絡をとり関わりを深めている。	担当者と連絡を密にとり、相談を行いながら、協力関係を築くよう取り組まれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の理念を掲げている。グループホームは家庭の延長線にある施設であることを職員全員がしっかりと認識しており身体拘束は行わない。	身体拘束排除の理念が掲げられ、身体拘束をしないケアについての研修が法人全体でなされている。職員全員がしっかりと認識を持ち、支援されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながるような事は一切ないが職員は知識を増やし今後も虐待が起こらないように注意を払うように努める。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護を活用することは行っていないが今後活用を検討する機会も考慮し制度についての知識や理解を深めるように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、またその後も家族の訪問時や電話で不安点・疑問点等に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の現状等の報告は面会や支払いの際、また電話連絡などで報告している。	目安箱を設置したり、面会時や電話での入居者の現状報告の際に意見を吸い上げ、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者と職員との間のコミュニケーションに重点を置きそこから出た意見を運営に反映させるよう努めている。	朝礼や終礼時に職員から提案がなされ、意見をもとに改善につなげられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務年数や能力に応じて社外研修に出てもらう機会が取れるようになって来ている。認知症介護の知識・技術向上によりやりがいを感じて働ける環境が整ってきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、管理者ならびに候補者を対象にした勉強会を行っている。またスタッフも法人内外での勉強会・研修に参加して知識を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今のところ個人的な繋がりからの交流のみにとどまっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話をじっくり傾聴する事により本人の要望や困っている事をしっかり聴きいれるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前の見学・面談、入居以後も家族の質問等には丁寧になりやすく答えることで不安を払拭できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族のニーズに合った支援が行えるように勤めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が同じ時間を共有しながら、時には家族のような・時には友人のような関係を築きあげるように常に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方を交えた行事の参加を促し、利用者と家族と職員が交流する事で共に信頼を深めていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同敷地内にあるデイケアに来ている旦那さんが利用者（奥さん）に会いに来られたり、以前デイを利用していた利用者を訪ねて友人の方が遊びに来られている。	行きつけだった商店に行ったり、自宅周辺を散策したりと、入居者の希望に応じて、関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員がしっかり把握している。利用者の間に入ったりして良好な関係を作れるように心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホーム退居後であっても法人内の病院や施設等で見掛けた時は積極的に話しかけたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や言葉には現れない表情やしぐさにも注目して利用者の希望や意向を吸い上げるようにしている	日常の関わりの中から感じ取り、入居者を家族同様に考え、思いやこだわりが尊重されるよう職員で検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者と会話しながらこれまでの生活歴を聞いたり、家族からの情報をもとに現在の生活につなげるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活から心身の状態の確認や、レクリエーションなどの余暇活動からも状態を観察して現状把握につとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや業務中においても利用者のほんの些細なことであっても気付いた事があれば挙げていき、家族との連絡も密に行って介護計画に活かしている。	毎月1回の支払い時に家族の意向を確認している。また職員の意見も取り入れた、介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を作成して日常の気付きなどを書き込んで介護計画に活かしている。連絡ノートも情報の共有に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内に様々な施設があり連携・相談・アドバイスをもらって利用者のニーズに応えられるよう自施設の幅を広げられるように取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の方がお墓参りに行かれたり、行きつけの美容院に行かれるなど利用者個人の希望に沿えるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には母体の病院で受診しているが、入居以前からかかりつけの病院がある場合はそのまま継続して医療を受けてもらっている。	基本的には同法人の病院がかかりつけ医となるが、入居以前からかかりつけの病院がある場合はそのまま継続して医療を受けられるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の些細な変化であってもすぐに相談できる連携体制がしっかりとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合には病院との連携をしっかりととり、早期退院できるように努めもらう。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期は行っていない。法人内に病院がありバックアップ体制が整っている。	入居時や状態に応じて終末期の方針について説明されている。状態に変化があれば法人内の他の機関を紹介し、回復されれば戻ってこられる体制づくりがなされている。	家族に十分に説明が行われ、理解が得られているが、方針を共有するために文書化し対応されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにて対応。法人内の応急救護の勉強会にも参加し救急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月一回は避難訓練を行い、時には夜間帯での火災等を想定して一人及び少人数の職員での避難の訓練をしている。	毎月1回、避難訓練が行われ、夜間帯の火災を想定した訓練も行われている。隣接する老人保健施設に協力を依頼されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への尊敬の念を持ち続け、言葉遣いに気を付けている。トイレや入浴の際のプライバシーの保や個人情報の取り扱いには気を配っている。	入居者に対する礼儀と尊敬の念を持った言葉遣いとなるよう気を配られている。入居者に合わせた声かけが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人個人に合わせた説明を行い、個人を尊重している。利用者にとってわかりやすい言葉で丁寧に時間をかけておこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や決まり、時間を優先するのではなく利用者の意向に沿った支援を行うよう努めている。時には予定を変更して利用者の思いに応えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される利用者には床屋さんにホームに来てもらって散髪・パーマなどをしてもらっている。家族の方と行きつけの床屋に行く利用者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の意見や希望も取り入れるようにしている。準備や後片付けも出来る範囲で手伝ってもらっている。	入居者の好みを聞き、メニューに取り入れられている。準備や後片付けはできる範囲で一緒に行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ物の好き嫌いを把握したり個人の摂取出来る食事量を把握し完食を目指している。水分も好みの飲み物を出して少しでも多く摂取してもらえるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の有する能力に応じて出来ないことのみ支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンをしっかり把握して言葉かけや誘導等の支援を行っている。	排泄パターンの把握と表情によるサインを確認し声かけがなされ、トイレで排泄してもらうように支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すように食事・水分補給 また運動で腸の動きが活発になるようにしている。排便に重点を置き、服薬も行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に曜日は決まっているが(伸:火・木・土 菜衣:月・水・金)希望があれば対応している。	ユニット毎に曜日が決まっているが、希望があれば対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間はなるべく起きてもらうようにして夜間ぐっすり眠ってもらえるように努めているが、夜眠れない場合は無理に入眠を促すことなく見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・効果について理解している。新しい薬に関しては連絡ノートに効果や副作用等を記載して職員全員が目を通すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事を取り入れて四季を感じてもらえるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺を散歩したり、ドライブやちょっとした買い物など頻繁に外出する機会がある。出来る限り利用者の希望に沿うように努めている。	ホーム周辺を散歩したり、ドライブへ出かけたり、家族とのお墓参りなど、希望に応じて外出の機会が多く持てるよう支援がなされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている利用者の場合は金庫で管理しており、買い物等必要な時に必要な分を持っていくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に出来るだけ応えられるように家族間とのやりとりの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の耳に馴染んだ音楽や季節ごとの草花をリビングに飾ったり、居室の入り口に月行事の飾りを貼って季節感を出している。	馴染みのある童謡や流行歌を流し、季節ごとの花を飾ったり、玄関や居室入り口の飾りを行事ごとに変え、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前や風除湿にイスを置いており、利用者がその空間を利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	イスやタンスなどの家具や写真等の小物など利用者が家で使っていた馴染みの物を置いたりして本人が落ち着く空間を作っている。	タンスなどの家具や、小物など自宅で使用していたものを置き、本人が落ち着く空間となるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング・トイレ・浴室に手すりを設置しており利用者の安全には細心の注意を払っているが利用者個人の有する能力を活かし、出来ることを奪う介護は行わないよう努めている。		